

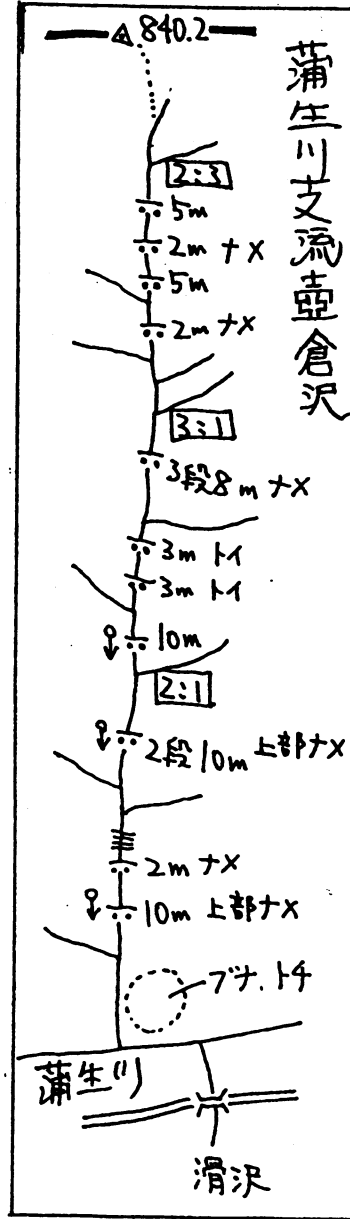
(記・ じ)

[タイム] 出合(8:30)→砂防ダム(8:35)→小白沢出合(9:15)→二俣(9:35)→840.2m三角点(12:40)

### 蒲生川支流壺倉沢 1994年7月31日

840.2mピークより下降開始。すべりやすい斜面をヤブをこぎながら下ると沢に出合う。最初の5m滝は右岸をクライミングダウン。このあと小～中規模の滝が次々として出てくる。またナメが多く、気持ちよく歩ける。中間部より下流に10m規模の滝が3カ所あるが、いずれも懸垂下降でクリアーする。蒲生川に入る前のブナの森は素晴らしく、気持ちの良い所であった。(記・ )

[タイム] 840.2mピーク(13:05)→沢(13:30)→蒲生川出合(15:30)→林道(15:40)

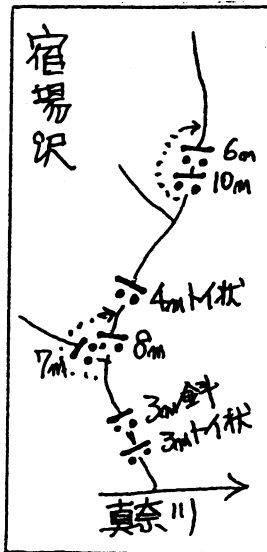


### 真奈川支流宿場沢右俣

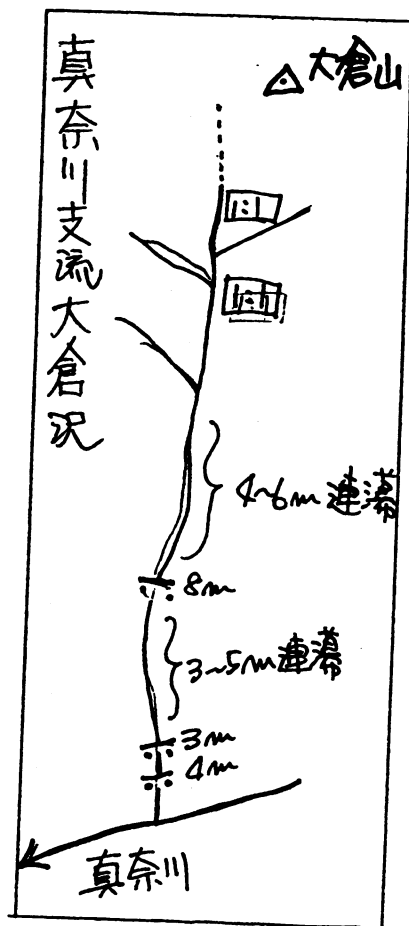
1995年7月29日

L:

昨年同時期の沢登り合宿では、メジロの群れにまといつかれて往生した。今回の沢登り合宿も恐怖の思いでやってきたのだが、メジロは一匹もいない。7月半ばの大雨で流れ去ってしまったものだろうか。



30分ほどの遊行で、7mと8mの滝2つが並んで現われる。今日の目標は宿場沢本流(左俣)であったのだが、ここで間違えてしまった。8m滝のかかっている方を、沢本流と判断してしまったのである。左俣にかかる7m滝を高



捲いて8m滝の上部に出る。

トイ状の滝を過ぎると、沢の中に親指大の果球が集まって凝結しているオパールの鉱床がある。いくつかほじくって割ってみたが、中は巣が入っていて貴石オパールとしての価値はない代物であった。

10m滝を高捲くと滝もなくなり、土砂の溝状となる。枝尾根をみやると目的の方向とはずれて、どうも蟬倉山へ向っているらしい。7mと8mの滝2つが並んで現われた所で間違えて、右俣に入ってしまったものらしい。沢が泥溝状となった所まで遡ってから、引き返す。(記・)

[タイム] 蒲生川・真奈川出合(6:50)→宿場沢出合(8:00)→二俣(8:30)→遡行終了(10:15)

### 真奈川支流大倉沢

1995年7月30日

L

本当のところは上大倉沢を遡行してこの大倉沢を下降する予定だったのだが、間違えて大倉沢に入ってしまった。遡行を始める。最初はさして変化のない沢である。そのあと3~5mの滝が続き、どんどん高度を稼いでゆく。滝はフリーで簡単に登れる。上部はガリー状で、ヤブはたいしたことはなかった。2時間ちょっとで尾根に出る。

ここで困ったことが起きた。下降を予定した沢が、地図の方角とは反対で、決断が下せない。この時点では、沢を取り違えたことがわからなかった。現在地が確認できないので、大倉山の三角点を確認することにし、尾根上を行きつ戻りつ、2時間近くを費やしてようやくみつけ、現在地を確認することができた。

(記・)

[タイム] 大倉沢出合(7:20)→尾根(9:40)→大倉山三角点(11:25)